



一般社団法人 グリーンビルディングジャパン  
[www.gbj.or.jp](http://www.gbj.or.jp)

# GBJ

BOOKLET  
2019 v.3

これからのサステイナブルな  
環境づくりのために大切なこと  
～LEED、WELL、SITES、Arc、GRESB～

[www.gbj.or.jp](http://www.gbj.or.jp)



## INDEX

|                               |                         |
|-------------------------------|-------------------------|
| 02 Introduction   LEED        | 15 一般公開ビデオ              |
| 04 Introduction   WEEL        | 16 GBJ会員による論考           |
| 06 Introduction   日本国内に対応した基準 | 18 Q&A                  |
| 07 Introduction   Arc / SITES | 20 GBJとは?   概要/理事・監事・顧問 |
| 08 Introduction   GRESB       | 21 GBJとは?   WG・支部       |
| 09 GBJセミナー                    | 22 GBJとは?   入会案内        |
| 14 LEED認証プロジェクト見学会            | 25 法人会員紹介               |

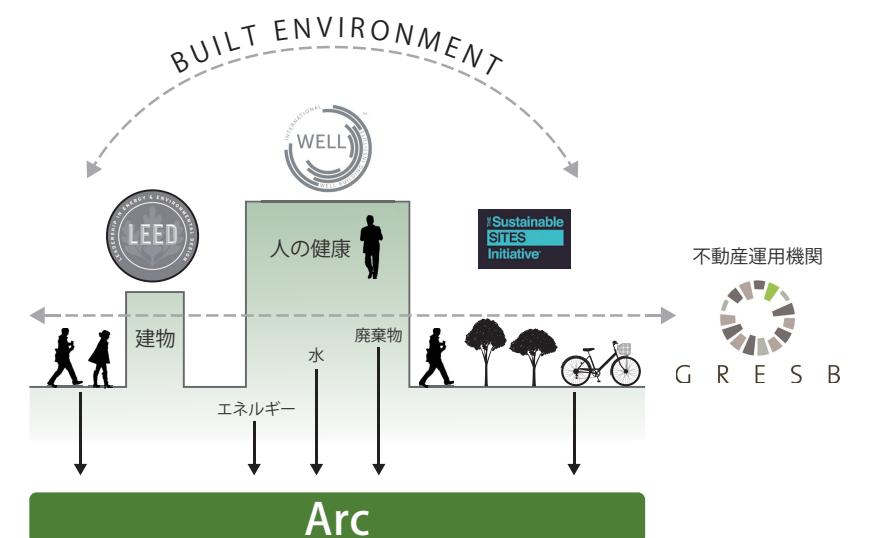
## GBJブックレット2019

# これからのサステイナブルな 環境づくりのために大切なこと ～LEED、WELL、SITES、Arc、GRESB～

一般社団法人グリーンビルディングジャパン(GBJ)は、日本におけるサステイナブルなグリーンビルディングの推進のため2013年に設立されました。グリーンディング認証のグローバル基準であるLEEDを運営するUSGBCとの協議窓口として活動を開始し、7年目を迎えました。認証基準に関する技術的ハードルや言語的ハードルの軽減に向けた活動、グリーンビルディングに関するシンポジウムやセミナーの開催などを通じて、日本におけるLEEDの普及、推進に大きく貢献してきました。

さらに、LEEDに加え、人の健康とウェルビーイングの観点から空間を評価するWELL、ランドスケープの環境性能を評価するSITES、運用中の建物のエネルギーや水使用などの環境性能を表示するArc、不動産投資判断のツールとなるGRESBなど、活動の範囲はサステイナブルな社会に関わるグローバル基準全般へと広がりました。GBJは現在、約60社の法人会員と多くの個人会員の活動により支えられています。

このブックレットはサステイナブルな社会づくりに関わるグローバルな仕組み、多岐にわたるGBJの活動を知っていただくことを目的に作成しました。こちらをインデックスとして、より詳細な情報についてはQRコードからGBJウェブサイトへ飛べるようになっています。21世紀の社会において、エネルギー消費の削減や環境負荷低減など、ビルディングやインフラに関する課題、働き方改革などで議論されている労働生産性や働く人の健康などは、すべてサステナビリティという観点でつながっています。この小冊子が、さまざまな課題を網羅的に把握し小さな個別の取り組みを大きなうねりに変えていく一助となることを願っています。



# LEED

Leadership in Energy & Environmental Design



LEED®は、最高クラスのビルト・エンバイロメント（建築や都市の環境）を作るための戦略やそれらをどう実現させるかを評価するグリーンビルディングの認証プログラムです。

LEED認証を受けるためには、グリーンビルディングとして備えるべきいくつかの必須条件（Prerequisite）を満たし、選択項目のポイント（Credit Points）を選んで取得することが必要です。取得したポイントによって認証のレベルが決まります。必須条件と選択項目のポイントは認証システムごとに設定されています。実際のプロジェクトでは最もふさわしい認証システムを選ぶことができます。LEEDは、ビルト・エンバイロメントが、設計され、建設され、維持され、オペレーションされてきた方法を、世界中で変革させようとしています。コストや資源の削減を進めながら、人々の健康に良い影響を与え得ることに配慮し、また、再生可能なクリーンエネルギーを促進している建築物の認証を行っています。

LEED認証は、USGBC（U.S. Green Building Council）が運営し、実際の認証業務は GBCI（Green Business Certification Inc.）が行っています。

\*1：LEEDの最新バージョンは4.1です。

## 認証システムの種類



LEEDには評価する目的に対応した、5種類の認証システムが用意されています。

## 評価項目



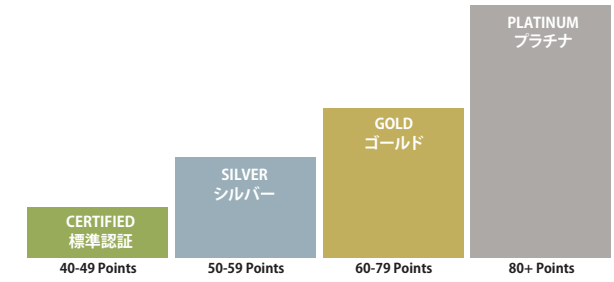
各評価項目において必須条件を満たした上で、選択項目によってポイントを加算して評価します。

## 世界の認証件数

| 2019年5月現在 (件) |        |          |     |       |        |
|---------------|--------|----------|-----|-------|--------|
| アメリカ合衆国       | 64,116 | アラブ首長国連邦 | 354 | コロンビア | 162    |
| カナダ           | 4,098  | ドイツ      | 341 | ポーランド | 162    |
| 中華人民共和国       | 1,585  | スペイン     | 323 | タイ    | 162    |
| インド           | 1,311  | スウェーデン   | 279 | 台湾    | 152    |
| サウジアラビア       | 860    | イタリア     | 258 | 韓国    | 148    |
| ブラジル          | 545    | 香港       | 207 | 日本    | 133    |
| メキシコ          | 395    | チリ       | 195 | その他   | 2,128  |
| トルコ           | 392    | フィンランド   | 183 | 合計    | 78,489 |

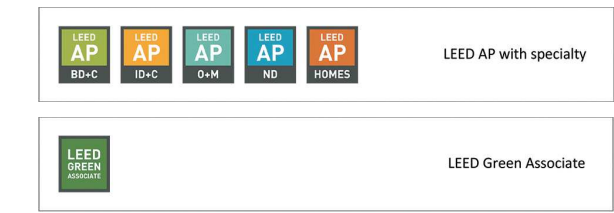
LEEDは世界で最も広く利用されているグリーンビルディング評価システムです。

## 認証のレベル



取得したポイントの合計によって認証のレベルが決まります。

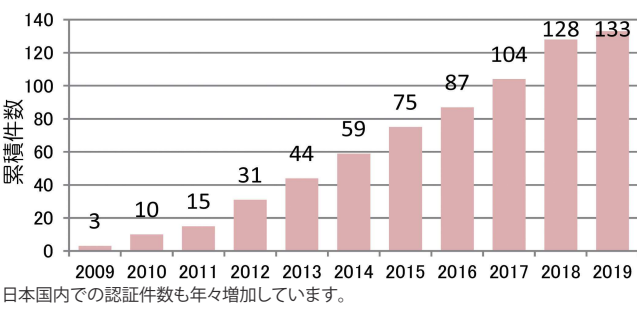
## 資格



LEED Green Associateは、グリーンビルディングの入門資格です。

さらに、LEED APは、特定のLEED評価システムにおける専門性とグリーンビルディングの高度な知識を有する専門資格です。

## 日本の認証件数



## LEED クレジットの概要

各LEEDv4の各認証システムの概要の日本語版がUSGBCサイトからダウンロードできます。

### LEED v4 建物設計と建設

2015年7月1日更新

内容：  
LEED BD+C: 新築  
LEED BD+C: コア&シェル  
LEED BD+C: 学校  
LEED BD+C: 店舗  
LEED BD+C: データセンター  
LEED BD+C: 倉庫と配送センター  
LEED BD+C: 宿泊施設  
LEED BD+C: ヘルスケア

### LEED v4 インテリア設計と建設

2015年7月1日更新

内容：  
LEED ID+C: 業務テナント内装  
LEED ID+C: 店舗  
LEED ID+C: 宿泊施設

### LEED v4 既存建物の運用 - 保守

2014年10月1日更新

内容：  
LEED O+M: 既存建物  
LEED O+M: 学校  
LEED O+M: 店舗  
LEED O+M: データセンター  
LEED O+M: 宿泊施設  
LEED O+M: 倉庫と配送センター

<https://www.usgbc.org/resources/leed-v4-bdc-rating-system-japanese>

<https://www.usgbc.org/resources/leed-v4-idc-rating-system-japanese>

<https://www.usgbc.org/resources/leed-v4-om-rating-system-japanese>

## 日本国内におけるLEED 認証プロジェクト

<https://www.gbj.or.jp/document/certified-projects/>

|     |                  |               |    |                       |                  |                                                                                                                                                               |                                                                                             |           |            |  |
|-----|------------------|---------------|----|-----------------------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------|--|
| 132 | 非公表              | 非居住施設・居住施設    | 大阪 | LEED-ND v2009 Stage 2 | 標準認証 (Certified) |                                                                                                                                                               |                                                                                             | 2019/3/19 | 2016/10/27 |  |
| 131 | 日本郵政グループ本社プロジェクト | 事務所:管理事務、専門職務 | 東京 | LEED-CI v2009         | Gold             | <a href="https://www.usgbc.org/projects/japan-post-holding-s-headquarter-project">https://www.usgbc.org/projects/japan-post-holding-s-headquarter-project</a> | <a href="http://www.gbj.or.jp/buildings/1405552">www.gbj.or.jp/buildings/1405552</a>        | 2019/2/25 | 2016/9/28  |  |
| 130 | ICI Lab EXCHANGE | 事務所:管理事務、専門職務 | 茨城 | LEED v4 BD+C: NC      | プラチナ             | <a href="https://www.usgbc.org/projects/ici-lab-exchange">https://www.usgbc.org/projects/ici-lab-exchange</a>                                                 | <a href="http://www.gbj.or.jp/buildings/1067595">http://www.gbj.or.jp/buildings/1067595</a> | 2019/2/14 | 2016/8/12  |  |
|     |                  |               |    |                       |                  |                                                                                                                                                               |                                                                                             | 2019/1/3  | 2016/10/18 |  |

## LEED 用語集

<https://www.gbj.or.jp/document/leed-glossary/>

|               |       |    |       |                                                                                                                                                                           |                                                                                               |
|---------------|-------|----|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
|               |       |    |       | with Pesticides (www.epa.gov/pesticides factsheets/treatart.htm).                                                                                                         |                                                                                               |
| adhesive      | 接着剤   |    | v2009 | any substance used to bond 1 surface to another by attachment. Adhesives include bonding primers, adhesive primers, and adhesive primers for plastics. (SCAQMD Rule 1168) | 1つの表面を別の表面に、貼付して接着するために使用される物質。接着剤には、接着用下塗剤、定着剤、およびプラスチック用定着剤が含まれる。(SCAQMD Rule 1168)         |
| adjacent site | 開発隣接地 | v4 |       | a site having at least a continuous 25% of its boundary bordering parcels that are developed sites. Only                                                                  | 少なくとも26%以上の連続した区画境界で既開発地に隣接した敷地。この計算には実際に隣接する区画のみを考慮し、通行権を有する道の部分を考慮しない。水域に隣接する境界部分も計算から除外する。 |



# WELL

WELL Building Standard™



「WELL Building Standard™」(WELL認証)とは、空間のデザイン・構築・運用に「人間の健康」という視点を加え、より良い居住環境の創造を目指した評価システムです。

公益企業(PBC)であるIWBから2014年10月20日にv1.0として正式公開され、スタートしました。「身体的、精神的、社会的に良好な状態＝ウェルビーイング」を重視しています。

建物の性能としてLEEDやCASBEE等で評価されてきた環境性能に加えて、建物内で暮らし、働く居住者の健康・快適性に焦点を当てた世界初の建物・室内環境評価システムであり、特に居住者の身体に関わる評価ポイントについては、環境工学の観点のみならず医学の見地から検証が加えられています。

WELL認証はIWB(International WELL Building Institute)が運営し、実際の認証業務はLEEDの認証も手がけるGBCI(Green Business Certification Inc.)が行っています。

## WELL v1

### WELL v1認証システムの種類

主な認証システムタイプとして3タイプあります。

- ①New and Existing Buildings

「新築/既存建物版」
- ②New and Existing Interiors

「新築/既存インテリア版」
- ③Core & Shell

「コア＆シェル版」

- ★現在、パイロット版として以下の用途別WELL認証があります。  
集合住宅版、教育機関版、店舗版、レストラン版、業務用キッチン版
- ★上記以外のタイプの建物でも対応できるように評価項目をカスタマイズする「ALL Project In版」もあります。
- ★WELL Building Standardとは別に、複数建物のある街区を評価するWELL Community Standard TM pilot 評価システムがあります。

### WELL v1認証のレベル

WELL基準認証のレベルは、Platinum, Gold, Silverの3段階です。建物版では必須41＋オプション59項目＋ボーナス5項目＝全105項目。(タイプにより項目数は異なる)



### WELL v1評価コンセプト

- ①空気、②水、③食物、④光、⑤フィットネス、⑥快適性、⑦こころ、の7つの評価コンセプトがあります。



## WELL v2 pilot

### WELL v2認証システムの種類

WELL v2ではどのような用途の建物でも評価システムは同一のものを使用します。ただし、テナントビルのコア部分を対象とした場合には、WELL Coreプロジェクトと呼ばれます。WELL v1にあったビル全体の「建物版」、室内部分を対象とした「インテリア版」の区別は無くなりました。

v1にオプションとしてあった予備認証(Precertification)は、v2では無くなり、D&O認証(WELL Design & Operations)として新たに若干異なった事前認証のオプションができました。

### WELL v2認証のレベル

WELL v2認証レベルは、全必須項目を満たした上で、オプション項目80点以上:プラチナ、60～79点:ゴールド、50～59点:シルバー です。



### WELL v2評価コンセプトの項目数とパート数

| Concept      | 必須: Precondition |              | 加点: Optimization |              |
|--------------|------------------|--------------|------------------|--------------|
|              | 項目数<br>Feature   | パート数<br>Part | 項目数<br>Feature   | パート数<br>Part |
| 1 A: 空気      | 4                | 10           | 10               | 19           |
| 2 W: 水       | 3                | 11           | 5                | 9            |
| 3 N: 食物      | 2                | 5            | 11               | 17           |
| 4 L: 光       | 2                | 3            | 6                | 11           |
| 5 V: 運動      | 2                | 6            | 10               | 21           |
| 6 T: 温熱快適性   | 1                | 2            | 6                | 10           |
| 7 S: 音       | 1                | 3            | 4                | 7            |
| 8 X: 材料      | 3                | 8            | 11               | 16           |
| 9 M: こころ     | 2                | 3            | 13               | 22           |
| 10 C: コミュニティ | 3                | 8            | 13               | 29           |
| 計            | 23               | 59           | 89               | 161          |
| I: イノベーション   |                  |              | 5                | 5            |

### WELLv1,WELLv2 pilot の登録

2018年5月末にWELL v2 pilot版がリリースされました。pilotから正式版への移行は2020年の見込みですが、当分(期間未定)は、v1による登録も可能です。v1登録のプロジェクトをv2に移行することも可能です。v1, v2 pilot版とも日本語訳はIWBのWEBサイトからダウンロードできます。(2019.6.30現在)

IWBのWEBサイト: <https://resources.wellcertified.com/>

### WELL v2評価コンセプト

| 評価コンセプト                  | 必須項目                                           | オプション項目                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| AIR<br>空気                | 1.基本的な空気質<br>2.禁煙環境<br>3.効率的な換気<br>4.建設段階の汚染管理 | 5.空気質向上<br>6.換気強化<br>7.開閉可能な窓<br>8.空気質モニタリングと啓発<br>9.汚染侵入管理<br>10.燃焼の最小化<br>11.発生源分離<br>12.空気を過                                                                                                                          |
| Water<br>水               | 1.基本的な水質<br>2.水質汚染物質<br>3.レジオネラ属菌の管理           | 4.水質向上<br>5.水質の一貫性<br>6.飲料水摂取の促進<br>7.湿気の管理<br>8.手洗い                                                                                                                                                                     |
| Nourishment<br>食物        | 1.果物と野菜<br>2.栄養の透明性                            | 3.精製成分<br>4.食品広告<br>5.人工的原材料<br>6.一人前の分量<br>7.栄養教育<br>8.豊かな食事<br>9.特別食<br>10.食品の準備<br>11.責任ある食品調達<br>12.食品生産<br>13.地元の食品環境                                                                                               |
| Light<br>光               | 1.光曝露と教育<br>2.ビジュアル照明デザイン                      | 3.サーカディアン照明デザイン<br>4.グレア制御<br>5.昼光へのアクセス強化<br>6.視覚的バランス<br>7.電灯の品質<br>8.入居者による照明環境制御                                                                                                                                     |
| Movement<br>運動           | 1.アクティブな建物とコミュニティ<br>2.視覚および身体に関する人間工学         | 3.運動の通路網と循環<br>4.アクティブ通勤者と使用者の支援<br>5.サイトの計画と選択<br>6.運動の機会<br>7.アクティブな家具什器<br>8.運動スペースと器具<br>9.外部空間の活動的なデザイン<br>10.拡張人間工学<br>11.運動の促進<br>12.自己モニタリング                                                                     |
| Thermal Comfort<br>温熱快適性 | 1.温熱性能<br>3.温熱のゾーニング<br>4.個別温熱快適性              | 2.拡張伝熱能力<br>5.外部空間の活動的なデザイン<br>6.温熱快適性のモニタリング<br>7.湿度制御<br>5.輻射による温熱快適性<br>6.温熱快適性のモニタリング<br>7.湿度制御                                                                                                                      |
| Sound<br>音響              | 1.音響マッピング                                      | 3.最大騒音レベル<br>4.遮音壁<br>5.吸音係数<br>6.サウンドマスキング                                                                                                                                                                              |
| Materials<br>材料          | 1.基本的な製品の事前注意<br>2.有害材料の排除<br>3.屋外構造           | 4.廃棄物管理<br>5.インプレース管理<br>6.現場のレメディエーション<br>7.農業殺虫剤の使用<br>8.有害材料の低減<br>9.清掃用品と清掃手順<br>10.揮発性化合物の削減<br>11.長期排出規制<br>12.短期排出規制<br>13.強化された材料の事前注意<br>14.材料の透明性                                                              |
| Mind<br>こころ              | 1.精神的健康の促進<br>2.自然へのアクセス                       | 3.精神的健康の支援<br>4.精神的健康に関する教育<br>5.ストレス支援<br>6.回復の機会<br>7.回復空間<br>8.回復プログラム<br>9.自然へのアクセス拡充<br>10.集中力サポート<br>11.睡眠サポート<br>12.出張<br>13.喫煙の予防と禁煙<br>14.薬物使用教育とサービス<br>15.オピオイド緊急対応対策                                         |
| Community<br>コミュニティ      | 1.健康とウェルネス意識<br>2.インテグレイティブデザイン<br>3.入居者調査     | 4.詳細な入居者調査<br>5.保健サービスと健康のための給付<br>6.健康促進<br>7.コミュニティの免疫<br>8.新しく親になる人たちのサポート<br>9.新しく母親になる人たちのサポート<br>10.家族サポート<br>11.市民参加<br>12.組織の透明性<br>13.アクセシビリティとユニバーサルデザイン<br>14.洗面所の特別措置<br>15.緊急時のための準備<br>16.コミュニティへのアクセスと関わり |
| Innovation<br>イノベーション    |                                                | 1. WELLのイノベーション<br>2. WELL AP参加<br>3. WELL教育<br>4. ウェルネスへのゲートウェイ<br>5. グリーンビルディング評価システム                                                                                                                                  |

## WELLの資格

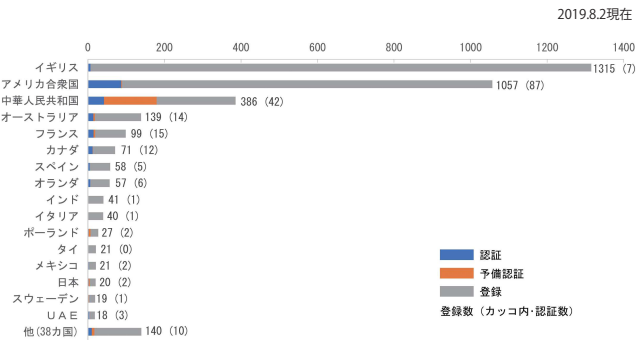
### WELL AP

WELL AP (WELL Accredited Professional)とは、WELL評価システムにおける専門性と高度な知識を有する人を認定する資格です。WELLプロジェクトの認証取得支援を行う人などに向けたものです。WELL認証の評価員(審査者)ではありません。日本国内を含め世界各地にて、英語＋日本語併記で受験可能です。(試験は少なくとも2020年7月迄は、v1の内容で実施されます。)



## WELLの登録件数

世界 現在までの累計登録件数は3,529件(54ヵ国)です。そのうち210件(21ヶ国)が認証を受けています。



日本 日本の累計登録件数は現在20件(うち2件認証済)です。

| No. | プロジェクト名                            | 面積(m <sup>2</sup> ) | 所在  | Ver.    | プロジェクトタイプ                       | 登録年月    | 認証年月            |
|-----|------------------------------------|---------------------|-----|---------|---------------------------------|---------|-----------------|
| 1   | 大林組 技術研究所 テクノステーション                | 5,535               | 東京  | v1      | New and Existing Buildings      | 2016/7  | 2017/11 Gold    |
| 2   | 大成建設 技術センター ZEB実証棟                 | 1,098               | 神奈川 | v1      | New and Existing Buildings      | 2017/10 | 2019/5 Platinum |
| 3   | 横浜グランゲート                           | 97,245              | 神奈川 | v1      | Core & Shell                    | 2017/8  | 2018/4 予備認証Gold |
| 4   | 清和ビジネス 本社                          | 1,708               | 東京  | v1      | New and Existing Interiors      | 2017/12 | 2018/7 予備認証Gold |
| 5   | ITOKI本社 XORK                       | 7,110               | 東京  | v1      | New and Existing Interiors      | 2018/1  | 2018/9 予備認証Gold |
| 6   | 非公表                                | 4,342               | 東京  | v1      | New and Existing Buildings      | 2017/6  |                 |
| 7   | 非公表                                | 6,008               | 兵庫  | v1Pilot | Multifamily Residential (Pilot) | 2017/9  |                 |
| 8   | 非公表                                | 29,747              | 東京  | v2Pilot | WELL Certification              | 2018/2  |                 |
| 9   | 非公表                                | 12,183              | 東京  | v1      | New and Existing Buildings      | 2018/5  |                 |
| 10  | 京阪 京都ホテル (GOOD NATURE HOTEL KYOTO) | 9,746               | 京都  | v1Pilot | WELL All Projects In (Pilot)    | 2018/10 |                 |
| 11  | 非公表                                | 6,035               | 神奈川 | v1      | New and Existing Buildings      | 2018/12 |                 |
| 12  | 吉井矯正歯科クリニック                        | 241                 | 東京  | v2Pilot | WELL Certification              | 2018    |                 |
| 13  | 特設計本社                              | 5,300               | 東京  | v2Pilot | WELL Certification              | 2018    |                 |
| 14  | 非公表                                | 333,862             | 東京  | v2Pilot | WELL Core                       | 2019/1  |                 |
| 15  | 非公表                                | 8,386               |     | v2Pilot | WELL Certification              | 2019/2  |                 |
| 16  | 非公表                                | 202                 |     | v2Pilot | WELL Certification              | 2019/3  |                 |
| 17  | 日建設計 東京事務所 7階                      | 976                 | 東京  | v2Pilot | WELL Certification              | 2019/5  |                 |
| 18  | point 0 marunouchi                 | 1,083               | 東京  | v2Pilot | WELL Certification              | 2019/6  |                 |
| 19  | 非公表                                | 203,161             | 東京  | v2Pilot | WELL Core                       | 2019/6  |                 |
| 20  | 非公表                                | 8,914               | 東京  | v2Pilot | WELL Certification              | 2019/7  |                 |



## 日本国内に対応した基準

LEED及びWELLは元々米国で開発され、また評価に米国の基準を多く参照しているため、日本では使いにくく、認証を取ってもあまり意味がないのではないかといった誤解があります。実際にはLEED、WELL共に世界中で使われており、国の境界を越えてグローバルに比較できる認証システムとして世界中に認知されています。評価基準や評価結果が世界中で使えるようにする一つの重要な仕組みは、LEEDあるいはWELLが各プロジェクトに達成してほしいとしている水準を満たすための方法に、各国や地域の基準を取り入れることが出来るオプションを設定していることです。もちろんそれらはLEEDあるいはWELLで設定されている「達成すべき意図」を十分に理解し、同様の成果が期待できる方法でなければなりません。

GBJでは法人会員・個人会員の皆さんからの応援・フィードバックを活かしながら日本で使えるLEED ACPまたWELL AAP/EPを進めています。

## LEED ACP

<https://www.gbji.or.jp/leed/leed-acp/>



**LEED ACP** (Alternative Compliance Path オルタナティブコンプライアンスパス)は、米国以外のプロジェクトでLEEDクレジットの基準を満たしていることが簡単には説明できない場合に、別のアプローチを設定することが出来るようにすることで、世界中のプロジェクトがLEEDを適用しやすくするために設定されています。大事な点は、LEEDクレジットの基準の意図する目的を変えたり、また成果のレベルを下げたりすることなくACPを設定する必要があるという点です。つまり、それぞれの国や地域ですでに使われている基準や方法で、LEEDクレジットが考えている意図を達成できることが、審査を通じて確認できれば、その国や地域の状況に合った別のアプローチでクレジットを取ることができます。

GBJが取り組んで、すでにACP(試験的運用として)成立しているものは次のようなものがあります。

●LEED v4(バージョン4)では、基本的にすべてのビル全体が禁煙であることを求めています。旧バージョンで認められていた屋内喫煙室のオプションが認められなくなったために、日本においては都心部のビルを中心にLEED v4の基準に対応した設計・運用ができるかどうか懸念されるというフィードバックが多く寄せられていました。GBJでは日本の喫煙規制と世界の基準では隔たりがあり、徐々にビル全体が禁煙といった方向に移行していくことは想定しつつ、現時点で計画、設計、建設あるいは既に運用されているビルでもLEED v4で認証が受けられるような方法を模索していました。GBJではUSGBC/GBCIと協議し、プロジェクト対象のビル全体を禁煙にするのと同等の結果を出せる屋内喫煙室の設計および運用基準を設定し、それぞれのプロジェクトで試験的に適用できる方法を作りました。このACPを実際に使った

プロジェクトが認証取得済みです。

また現在取り組んでいるものは次のようなものがあります。

●エアフィルターの仕様に関して、ASHRAE MERVとJISのフィルター基準との読み替え

●VOC低減の要求基準に関して、カリフォルニア公衆保健局(CDPH)に代替する日本型の方法

GBJはLEED International Roundtable Member(約30か国の代表で構成されるLEEDに対するアドバイザリーグループ)の一員として組織的に、またそれぞれのプロジェクト毎に、ACPに取り組んでいます。

## WELL AAP/EP

<https://www.gbji.or.jp/well/well-aapep/>



**WELL AAP/EP** (Alternative Adherence Paths, Equivalency Proposal)は、IWBI (International WELL Building Institute) が許可した代替案/同等性を通じて機能要求を満たすための方法です。LEEDと同様にWELLの要求基準も多くが米国の基準を参照していますが、それぞれの要求と同様の成果をプロジェクト特有の手法や各国で使われている基準や方法で代替可能であると証明できる場合に、それらのアプローチを取ることができます。

GBJのWELLワーキンググループはAAP、EPに取り組み、既に以下のものが成立しています。

**AAP:**

●エルゴノミクス: シートの調節機能に関して: HFES 100 基準またはBIFMA G1 ガイドラインの代わりに、日本人の標準的な身体サイズに適した寸法でも、既存プロジェクトでは認められる可能性がある。

**EP:**

●バリアフリー規定に関して: Americans with Disabilities Act (ADA)を「福祉のまちづくり条例」で代替可能。

●空気質に影響するコピー機の認証に関して: Blue Angel RAL-UZ 171をエコラベルNo.155で代替可能。

●食品アレルギーに関して日本の食品表示法(2015/4改訂)で代替可能。但し、必須表示で不足する「魚」「貝甲殻類」「大豆」「木の実」は表示する(推奨品目)。

●責任ある食品生産・持続可能な農業に関する「米国有機農産物認証ラベル」に対し、日本での「有機JAS」で代替可能。

●栄養成分表示に関し、総糖類含有量に対し、日本の食品表示法の塩分(ナトリウム)含有量で代替可能。

●エアフィルター(A12)についてMERV規格に対応するJIS規格品(対応表で明示)で代替可能。

●清掃用具(X09)について日本のエコマーク認定品で代替可能

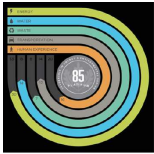
GBJは、IWBIのGlobal Marketing Partnerとなり\*これからも

WELL認証がより日本で使いやすくなるように活動していきます。



# Arc

<https://www.gbji.or.jp/others/arc/>



Arcは、エネルギー、水、廃棄物、交通、ヒューマンイクスピアリエンسという5つのKPI(キーパフォーマンスインディケーター:最重要指標)について世界中から収集するデータベースと行動パターンとの相対比較をした上で、パフォーマンススコアと呼ばれる100点満点での評価を行います。その評点はデータ入力をするたびに更新され、それに応じて再認証を受ける際の認証ランクも変わり、ダイナミックブラークと呼ばれるリアルタイムのデジタルサイネージに表示されます。



「現在の成績」を起点にして新たに設定する目標に向かう進捗を可視化し、達成度が高い項目と改善が必要な項目を関係者全員が共有できるように、システムが設計されています。Arcを利用することで、複数の関係者の間に横たわる、意思決定プロセスにおける複雑さやハードルを取り払い、物事をシンプルに推し進めることが可能になります。

USGBCとGBCIは過去20年にわたり、グリーンビルディングに関するデータを収集してきました。蓄積されたデータ量は世界に比類なきものといつて良いでしょう。そして今、USGBCとGBCIはそのデータベースを基に、プロジェクトの運用パフォーマンスを継続的にモニタリングし、リアルタイムでの同種プロジェクトとの相対評価を提供し、時を追うごとに更新される必要のあるサステイナビリティ戦略の策定と目標の達成を助ける、Arcというプラットフォームを構築しました。Arcを運営する主体はGBCIが立ち上げたArc Skoru Inc.という組織で、あらゆるデータとサステイナビリティを目指す行動をつなぐことで、QOLを高めていくためのプラットフォームを作ることされています。Arcは、現時点でLEED認証取得済みのプロジェクトとLEED Onlineへの登録を済ませて申請中のプロジェクトはもちろんのこと、まだLEED認証へのチャレンジを決めていないプロジェクトであっても、サステイナビリティと人間の健康に係る性能を高めることを目指す全てのプロジェクトが利用できるシステムです。ここでいう全てのプロジェクトとは、オフィス、小売店舗、病院、集合住宅、スタジアム、高齢者介護施設、学校、教育施設、公共施設、ホテル、ショッピングモール、工場、物流施設など世界中にある多様な用途のビル、そして複数のビルが存在する街区、コミュニティ、BID(ビジネスインブループメントディストリクト)、シティー(自治体)を対象とするものです。

「新築」と「既存建物」、「新規開発」と「既存街区」という関係で見ると、LEED BD+C(新築版LEED)が運用開始後にLEED O+M(既存版LEED)を適用し、その後のRe-Certification(再認証)の手続きに入るのを助け、またLEED ND(街区開発版)取得済み街区、または既存の都市がLEEDコミュニティやLEEDシティの認証を目指すのを助け、さらにはLEEDなどの認証をまだ取得していないプロジェクトが、LEEDやその他GBCIプロダクト(WELL、SITES、GRESBなど)の認証を取得するのを手助けするプラットフォームであるという言い方もできます。

# SITES

<https://www.gbji.or.jp/others/sites/>



USGBCが制度設計をし、GBCIが審査をする評価認証プログラムに、ランドスケープに特化したSustainable SITES Initiative、略してSITESが加わり、v2からは米国外での適用も可能になりました。これまではともすると過小評価されがちであった土壌、植物、水、ハードスケープの総体としてのランドスケープのもたらす便益を捉え直し、正しく価値化(マネタイズ)しようとする仕組みです。2015年に国土交通省が発行した国土形成計画にも記載され、最近日本でも注目が高まっているグリーンインフラの設計・技術・管理指針であり、定量的に評価するシステムでもあります。LEEDとは違い、特に建物がないプロジェクトでも評価対象になるため、公共公園、公開空地、商業地や住宅地などにデザインされる都市のオープンスペース、民有地緑化、屋上庭園、ストリート・スケープ(街路のデザイン)、大学キャンパス、美術館や病院に併設された緑化空間なども認証の対象となります。最低必要面積は186㎡(2,000平方フィート)と下限は定められていますが、上限は特になく、日本でも規模の大小を問わず取り組みが始まっています。





GRESB

https://www.gbj.or.jp/others/gresb/



GRESB評価とその広がり

GRESBは、不動産セクターの会社・ファンド単位での環境・社会・ガバナンス (ESG) 配慮を測り、投資先の選定や投資先との対話に用いるためのツールとして、APGやPGGMなどの欧州の年金基金を中心に2009年に創設されました。現在ではGBCIがGRESBの親会社となり、米国、豪州、アジアなどの機関投資家が参画しています。

元々は「Global Real Estate Sustainability Benchmark (グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク)」の略でしたが、ここ数年は、インフラ等にも評価対象が広がったため、GRESB (グレスビー、グレスブ) と略語で総称されるようになりました。GRESBは、実物資産関連のアセットクラスでの投資判断に使えるツールとして広がりをみせています (図表 1)

図 1 GRESB評価の枠組み



(注) 参加者数は全てグローバルの2018年の数字

参加者

不動産を対象とする「GRESBリアルエステイト」の中においても、メインのGRESBリアルエステイト評価・ディベロッパー評価にプラスして任意での参加ができる「レジリエンスモジュール」、またリアルエステイト評価等への参加者でなくても開示情報によって格付けされる「GRESB開示評価 (GRESB Public Disclosure)」も開始されるなど、メニューの多様化が進んでいます。

「GRESBリアルエステイト」への参加者は毎年増加しており、2018年は、グローバルで903、日本で61となりました (図表 2)。日本の内訳は、J-REITが多く38社、その参加率は時価総額ベースでJ-REIT市場の89%となっています (2018年9月時点)。私募リートや私募ファンドなどからの参加も増え始めています。また、開示評価については、大手

ディベロッパー各社も対象となっており、積極的に参加されています。また、「GRESBインフラストラクチャー」評価でも、2017年に日本から初参加があり、その後も着実に拡がりを見せています。

図 2 GRESBリアルエステイト評価参加者数の推移 (2010～2018年)



(出典：CSRデザイン環境投資顧問)

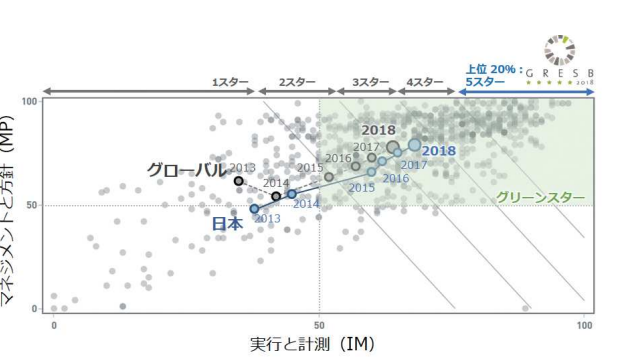
評価方法、スコア概要と評価項目

「GRESBリアルエステイト評価」では、総合スコアのグローバル順位によって格付 (GRESB Rating) が与えられ、上位20%が「5スター」、次の20%が「4スター」などと呼ばれます。また、「実行と計測 (IM：Implementation & Measurement)」と「マネジメントと方針 (MP：Management & Policy)」の2軸のスコアによって図表 3 のようにプロットされ、その両軸とも50%以上の好評価を得た参加者には「グリーンスター」の称号が与えられます。

日本参加者は毎年着実に平均スコアを上げ、2014年以降はグローバル平均よりも優位を維持しています。

評価項目は、サステナビリティに関する社内体制や方針の制定状況、ESG情報の開示状況をはじめ、LEEDやWELLを含むグリーンビル認証の取得実績、保有不動産物件を通した環境負荷削減への取組みやテナントとの環境・社会配慮の協働など、多岐に渡ります。

図 3 日本・グローバルのスコア推移 (2013～2018年) とGRESBの評価方式



(出典：CSRデザイン環境投資顧問)

\*QRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。

Seminer Report

セミナー資料

https://www.gbj.or.jp/document/seminer-document/



第47回 グリーンビルディング超入門

日時：2019年2月19日 (火)  
会場：アズビル株式会社本社会議室  
講師：フランサ・ジオニジオ氏  
(ヴォンエルプ)



2019年GBJセミナーの先陣を切ったのは「グリーンビルディング超入門」。私たちは、常にアップデートされる最新の内容を皆様にお届けするため、以降のセミナーでLEEDv4やWELLv2も取り上げているため、まずはその基本知識となるセミナーを開催しました。サステナブルな建物や健康に良い建物の歴史、LEED、CASBEE、Living Building Challenge、SITES、GRESB、WELL、SDGs、Arcなどの概要を解説しました。そもそも、Green building = sustainable building (グリーンビルディング＝サステナブルビルディング) のことです。

サステナブルとは、「サステナブルディベロップメント、持続可能な開発」として、1987年国連にて、“Sustainable development is development that which meets the needs of the present without compromising the ability of future generations to meet their own needs.” Brundtland Commission of the UN, 1987「将来世

代が彼らのニーズを満たすための能力を損なうことなく、現在世代のニーズを満たすこと」と定義されています。

サステナブルという言葉も、SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) として、頻繁に使われています。GBJではSDGsとグリーンビルディングの関連を探索勉強会も始まっています。

GBJ会員(有料)は過去のセミナー資料をウェブサイトで閲覧できます。セミナーを直接受講できない方でも当日と同じコンテンツを講師の音声とともにご覧いただくことができます。また、ネット環境を用いたセミナーのリモート受講を実施しており、遠方にお住まいの方でもインタラクティブに参加できる環境を整えています。

代が彼らのニーズを満たすための能力を損なうことなく、現在世代のニーズを満たすこと」と定義されています。

サステナブルという言葉も、SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) として、頻繁に使われています。GBJではSDGsとグリーンビルディングの関連を探索勉強会も始まっています。

**BREEAM** (Building Research Establishment Environmental Assessment Method)：グリーンビルディング認証の先駆け。元々は英国国立建築研究所、今はBRE (Building Research Establishment) トラストというチャリティーが運営。イギリス、イギリス外でもプロジェクト数は伸び続けている。

**LEED** (Leadership in Energy & Environmental Design)：USGBC (U.S. Green Building Council) が母体。世界で最も広く普及、利用されている。継続的に改訂を続けていて、最新版はv4.1。近年では、LEED for cities and communitiesを発表し、LEED Zeroも始めた。

**CASBEE** (Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency)：日本で作られ、利

用されている。特に自治体によるCASBEEの活用は2万件を超える。

**Living Building Challenge**：運営はInternational Living Future Institute。ZEB必須、水100%再利用など全項目が必須であり最も厳しいと言われている。

**SITES**：ランドスケープに重点を置いた認証。日本でもHARUMI FLAGで話題となった。

**GRESB**：ESGの面から不動産会社・ファンドを評価する年次ベンチマーク。日本でもJ-REIT、不動産ディベロッパーなど参加が増えている。

**GBCI** (Green Business Certification Inc.)：LEED、WELL、SITES、GRESBなど多くの認証を行う機関。

**WELL Building Standard**：Delos社が開発し、IWBI (International WELL Building Institute) が運営。人の健康に焦点を当て、食物や運動、心などを評価項目に持つ。日本でも登録、取得件数が増加している。

**SDGs** (Sustainable Development Goals)：国連によりセットされた、2030年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標、「世界を変えるための17の目標」。3番目のGood Health and Well-Being 全ての人に健康と福祉、13番目のClimate Actionなど直接的にサステナブルビルディングと通じるものも多い。

**Arc**：USGBCが運営するプラットフォーム。パフォーマンスを可視化する。単体のビルはもちろんのこと、LEED for Communities、LEED for Citiesにおいても、LEED登録プロジェクトは自動的に使える。

\*有料会員はQRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。



11



第51回 マテリアルWGセミナー

日時:2019年6月13日(木)  
会場:ヴォンエルフ 1 階 プレイスW  
講師:フランサ・ジオニジオ 氏 (ヴォンエルフ)  
林 昌明 氏 (前田建設工業)  
牧田 碧夏 氏 (UL Japan)



LEEDV4.1の変更点と改訂に適合したマテリアル商材の紹介と、2019年リリースのGBJマテリアルライブラリーの使い方について説明しました。LEEDV4.1は、2019年6月現在パイロット版として公開されています。今回、株式会社ヴォンエルフのフランサ・ジオニジオ氏より、LEEDV4との違いを比較しながら、どのような点を注意すればよいのかということを解説し、会場からはとても専門的な質問が上がり、活発な議論が展開されました。

次に、GBJマテリアルライブラリーの使い方について、マテリアルワーキンググループの林氏と牧田理事より説明しました。林氏より、マテリアルライブラリー構築に至った思いや、ライブラリーの掲載概要の説明、牧田理事よりULスポットの使い方について、画面を交えて説明しました。冒頭、マテリアルライブラリー構築の思いについて説明があったので、ただのツールの使い方の説明ではなく、マテリアルライブラリーグループのやりたいことがとてもよく伝わる説明会になりました。



LEEDマテリアルライブラリー

<https://www.gbj.or.jp/leed/leed-material/>



WELLマテリアルライブラリー

<https://www.gbj.or.jp/well/well-material/>



日本のLEED・WELLプロジェクトに貢献可能な製品をより検索しやすくするべく、クレジット(LEED)やFeature(WELL)毎にG B J 会員企業の関連製品を掲載しているライブラリーです。(例:建材や家具など)

第8回～第53回 GBJセミナー 一覧

<https://www.gbj.or.jp/document/seminer-document/>



|             |      |                                                                                            |                                                                                                                                                                          |                                                      |
|-------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 2014年4月22日  | 第8回  | 【公開ディスカッション】 Why LEED in Japan                                                             | 平松 宏城<br>菅 健太郎                                                                                                                                                           | (CSRデザイン&ランドスケープ GBJ共同代表理事)<br>(ARUP)                |
| 2014年5月27日  | 第9回  | 【LEED talk】大林組技術研究所テクノステーションにおけるLEED EBOM                                                  | 小野島 一                                                                                                                                                                    | (大林組)                                                |
| 2014年7月29日  | 第10回 | 【LEED for practitioners】マテリアル(建材)をめぐるLEED要件の整理                                             | 齋藤 千秋<br>高澤 誠司                                                                                                                                                           | (TOTO)<br>(東リ)                                       |
| 2014年8月26日  | 第11回 | 【LEED for practitioners】LEEDにおけるコミッションングについて                                               | 五島 賢哉<br>川島 実<br>岸本 知子                                                                                                                                                   | (Commtech Asia (Japan) Limited)<br>(清水建設)<br>(竹中工務店) |
| 2014年10月30日 | 第12回 | LEEDガイダンス・0                                                                                | 歳弘 浩三                                                                                                                                                                    | (グリーンコンサルティング サービス)                                  |
| 2014年11月25日 | 第13回 | LEED ND (エリア開発版) について                                                                      | 平松 宏城                                                                                                                                                                    | (ヴォンエルフ GBJ共同代表理事)                                   |
| 2015年4月21日  | 第14回 | The evolving role of Green Building Rating Systems and its impact on the built environment | Dominika Czerwinska (World Green Building Council)<br>Katy Dean (Green Building Council of Australia)<br>Mann Young (Asia Pacific Network, World Green Building Council) |                                                      |
| 2015年4月21日  | 第15回 | 【LEED talk】 LEED ブラチナ認証 ZEB実証棟見学会                                                          | 梶山 隆史                                                                                                                                                                    | (大成建設) 他                                             |
| 2015年5月26日  | 第16回 | 【LEED Basic】LEED-CI認証に貢献するテナントビル の条件―「このビルでLEEDは取れますか?」と言われたら                              | 朝倉 淳                                                                                                                                                                     | (ゲンスラーアソシエイツ)                                        |
| 2015年6月23日  | 第17回 | 【LEED Intermediate】LEED-NC Ver.3 クレジット解説(前編)                                               | 川島 実                                                                                                                                                                     | (清水建設)                                               |
| 2015年7月21日  | 第18回 | 【LEED Intermediate】LEED-NC Ver.3 クレジット解説(後編)                                               | 川島 実                                                                                                                                                                     | (清水建設)                                               |
| 2015年9月29日  | 第19回 | 【LEED Talk】建材・マテリアルに関するLEED要求を満たすためには?                                                     | 福島 祥子<br>追谷 武寿                                                                                                                                                           | (インターフェイス)<br>(UL島津ラボラトリー/UL Japan)                  |
| 2015年11月10日 | 第20回 | 【LEED Talk】LEED受験対策講座 今日から始めよう! LEED資格試験準備                                                 | 高木 智子<br>本郷 創<br>宮本 順子                                                                                                                                                   | (CSRデザイン環境投資顧問)<br>(清水建設)<br>(レンドリース・ジャパン)           |

|             |      |                                                               |                                                                                           |             |
|-------------|------|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 2016年1月26日  | 第21回 | 【LEED Talk】年に一度のビッグイベントGreenbuildとは?                          | 浦島 茂                                                                                      | (GBJ共同代表理事) |
| 2016年3月1日   | 第22回 | 【LEED Talk】鹿島技研 LEED EBOM について                                | 鹿島技術研究所                                                                                   |             |
| 2016年4月7日   | 第23回 | 【LEED Talk】米国グリーンビルディング事情 V4、WELLからEcoDistrictまで              | Jim Weiner (コラボレイティブ・プロジェクト・コンサルティング)<br>平松 宏城 (ヴォンエルフ、GBJ共同代表理事)                         |             |
| 2016年5月27日  | 第24回 | 【LEED Talk】 海外のLEED取得案件〜中国における最新LEED取得案件特集〜                   | 竹迫 由美子、エリック・ワン (清水建設)<br>橋本 誠 (ジョンソンコントロールズ)<br>浦島 茂 (インテル GBJ共同代表理事)                     |             |
| 2016年6月21日  | 第25回 | 【WELL Basic】WELL Building Standardとは? 〜日本で最も早いWELL認証に関するセミナー〜 | 奥 鍊太郎 (シービーアールイー)                                                                         |             |
| 2016年7月29日  | 第26回 | 【LEED Talk】 YKK80ビル説明・見学会                                     | 中村 晃子 (日建設計)<br>俣野 隆 (YKK不動産)                                                             |             |
| 2016年9月1日   | 第27回 | 【LEED Talk】サステナブル都市 inside.今だから話せる! 第1弾                       | 信時 正人 (エックス都市研究所理事、横浜市参与)                                                                 |             |
| 2016年10月20日 | 第28回 | 【LEED Talk】そこが知りたい! GREEN BUILD最前線〜GREEN BUILD2016参加報告〜       | 向野 能里子 (パデコ)<br>浦島 茂 (GBJ共同代表理事、インテル)<br>棚田 英之 (GBJ運営委員)<br>菊竹 奈津子 (日立コンサルティング)           |             |
| 2016年11月15日 | 第29回 | 【LEED Talk】ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター説明・見学会                     |                                                                                           |             |
| 2016年12月19日 | 第30回 | 【LEED Talk】LEED V4で求められるマテリアル、製品とは                            | 林 昌明 (前田建設工業)<br>柳澤 衛 (日本ガス機器検査協会 (J I A))<br>片岡 顯 (産業環境管理協会 (J E M A I))<br>坪倉 真琴 (池上産業) |             |
| 2017年1月27日  | 第31回 | 【LEED Talk】LEED Green Associate / LEED AP 資格取得 体験談            | 橋本 誠 氏 (ジョンソンコントロールズ)<br>米田 桜子 (ジョンソンコントロールズ)                                             |             |
| 2017年2月27日  | 第32回 | 【LEED Talk】LEED NDとは                                          | 安原 紀子 (ヴォンエルフ)                                                                            |             |
| 2017年3月22日  | 第33回 | 【LEED Talk】LEED V4でグリーンビルの建材に求められること、建設業界・メーカーに求められることは何か     | 追谷 武寿 (UL Japan)<br>浦島 茂 (グリーンビルディングジャパン)                                                 |             |
| 2017年4月21日  | 第34回 | 「不動産セクターのサステナビリティ指標『GRESB』と建築物」                               | 高木 智子 (CSRデザイン環境投資顧問)                                                                     |             |
| 2017年5月22日  | 第35回 | 【WELL Basic】Health, Wellness and Human Productivity           | ブルー・ジェームス (日建設計)                                                                          |             |
| 2017年6月26日  | 第36回 | 【WELL Basic】WELL Building Standard                            | 川島 実 (ヴォンエルフ)<br>フランサ・ジオニジオ (ヴォンエルフ)                                                      |             |
| 2017年7月28日  | 第37回 | 【WELL Basic】WELL Building Standard                            | 廣瀬 春奈 (日本設計)<br>本郷 創 (清水建設)                                                               |             |
| 2017年9月27日  | 第38回 | スマートシティの現状と、未来、日本の強み                                          | 岡村 久和 (亜細亜大学)                                                                             |             |
| 2017年11月15日 | 第39回 | LEED認証プロジェクト見学会トライセブン六本木                                      | ゴードン・ハットン、齋藤 潤(ペンブローク・リアルエステート)<br>ジョン・メーダー (レンドリース・ジャパン)<br>芝原 崇慶 (竹中工務店)                |             |
| 2017年11月21日 | 第40回 | Greenbuild2017報告会                                             |                                                                                           |             |
| 2017年12月14日 | 第41回 | 今だから話せる第3弾! スマートシティ・インターナショナル                                 | クレイ・ネスラー (ジョンソンコントロールズ)                                                                   |             |
| 2018年3月20日  | 第42回 | WELL認証の最新動向〜改訂バージョンv2情報など                                     | 今井 康博 (大林組)<br>川島 実 (ヴォンエルフ)                                                              |             |
| 2018年4月25日  | 第43回 | 【Intermediate:中級編】LEED エネルギーモデリングの概要                          | 柳瀬 真紀 (ウィリディスMEPエンジニアリング)<br>本郷 創 (清水建設)                                                  |             |
| 2018年7月13日  | 第44回 | 北欧の建物認証・エネルギー事情とユーザーエクスペリエンスへの接近                              | 加用 現空 (Aalto University, Finland)                                                         |             |
| 2018年9月25日  | 第45回 | LEED認証取得事例見学会 近三ビルデング (LEED O+M V4)                           | 森 正隆 (近三商事)<br>田中 徹 (ヴォンエルフ)                                                              |             |
| 2018年11月19日 | 第46回 | Greenbuild2018報告会                                             |                                                                                           |             |
| 2019年2月19日  | 第47回 | グリーンビルディング超入門                                                 | フランサ・ジオニジオ (ヴォンエルフ)                                                                       |             |
| 2019年3月19日  | 第48回 | LEED V4クレジット解説-1(中級編)                                         | 浦島 茂 (インテル)                                                                               |             |
| 2019年4月22日  | 第49回 | LEED V4クレジット解説-2(中級編)                                         | 永積 紀子 (ヴォンエルフ)                                                                            |             |
| 2019年5月23日  | 第50回 | WELL概要                                                        | 今井 康博 (GBJ理事)<br>川島 実 (ヴォンエルフ)                                                            |             |
| 2019年6月13日  | 第51回 | LEED V4.1のマテリアル変更点とLEED、WELLのクレジット取得に資する製品検索マテリアルライブラリーのご案内   | フランサ・ジオニジオ (ヴォンエルフ)<br>牧田 碧夏 (UL J A P A N)<br>林 昌明 (前田建設工業)                              |             |
| 2019年7月17日  | 第52回 | 建築・都市の「環境」「健康」国際基準、LEED・WELL と働くこと(入門編) 若者・女性・シニアも必見!         | 平松 宏城 (GBJ代表理事, ヴォンエルフ代表取締役)                                                              |             |
| 2019年8月2日   | 第53回 | ESG投資とGRESB: サステナブルなお金の流れを知ろう                                 | 木下 泰 (MS Investment, Inc.)<br>高木 智子 (CSRデザイン環境投資顧問)                                       |             |

\*有料会員はQRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。



LEED認証プロジェクト見学会

GBJセミナーの中でも特に人気のあるプログラムです。実務に関わった関係者が現場で語るグリーンビル実現の苦労話に耳を傾け、リアルに空間を体験することで、GBJ会員どうしの学びと交流の場になっています。



近三ビルディング  
LEED O+M v4 Gold  
<https://www.gbj.or.jp/seminar45data/>





YKK80ビル  
LEED-CS v2009 Platinum  
<https://www.gbj.or.jp/seminar26data/>





柏の葉スマートシティ LEED-ND v4  
2017年GBJ春のシンポジウム





大成建設技術センターZEB実証棟  
LEED-NC v2009 Platinum  
<https://www.gbj.or.jp/seminar15data/>





Tri-seven Roppongi  
LEED-CS v2009 Gold  
<https://www.gbj.or.jp/seminar39data/>





ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター  
LEED-NC v2009 Platinum  
<https://www.gbj.or.jp/seminar29data/>





鹿島技術研究所本館「研究棟」  
LEED-EBOM v2009 Platinum  
<https://www.gbj.or.jp/seminar22data/>





大林組技術研究所本館テクノステーション  
LEED-EBOM v2009 Platinum  
<https://www.gbj.or.jp/seminar9-data/>



一般公開ビデオライブラリーの紹介

GBJ主催イベントの紹介やGBJ関係者のインタビューの様子をまとめた動画をご紹介します。いずれも5分程度のコンパクトなものですので、手軽に雰囲気をご理解いただくのに適しています。

<https://www.gbj.or.jp/document/open-video/>

東京オリンピック・パラリンピック選手村のレガシー利用施設が環境認証取得  
～次世代の東京を見据えた環境認証諸制度活用セミナー & 授与式～  
東京オリンピック・パラリンピック2020で選手村として利用後、レガシーとして大規模な住宅商業エリアとして活用される「HARUMI FLAG」の環境認証取得に際し、認定書の授与および諸制度の解説を行いました。



GBJ設立5周年記念シンポジウム  
グリーンビルディングの展望  
～世界水準の都市、建築、ウェルネス、そしてESG投資～



第36回セミナー WELL Building Standard 公開版(約2分)  
人を中心にして健康・快適な建物/空間を評価する認証制度「WELL認証」について第36回セミナーの一部をご紹介します。



2017年GBJ春のシンポジウム  
ESG、CDP、GRESBとの広範な接点、単なる「環境」の枠組みや「単一不動産」の敷地境界線を超えて、コミュニティの健康、快適性、生産性、都市の持続可能性評価への発展と、次なるステージを予感させるシンポジウムを開催しました。



Introducing LEED Fellow Hiroki Hiramatsu  
日本でもLEEDプロジェクトが増えつつあり、街区を評価するLEED-NDにまで対象が広がってきている中で、現在の日本の街の課題や社会的な背景はどのような状況にあるのか。共同代表理事の平松宏城がインタビューに答えました。



第13回セミナー LEED ND(エリア開発版)についてダイジェスト版(約2分)  
LEED NDとは何か、世界での認証状況、日本のエリア開発に与える影響、日本での普及の課題は何かなど、LEED NDの基礎知識から面白さ・難しさまで、全体像をお届けします。



\*有料会員はQRコードから詳しい情報をご確認いただけます。



## GBJ会員による主な論考、インタビュー記事

GBJの理事、会員が執筆した記事については掲載誌担当者のご理解をいただき、PDFを公開しております。

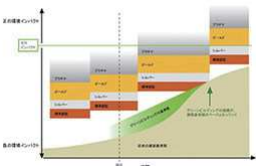
<https://www.gbj.or.jp/document/resources/>



### “基礎から学ぶ「グリーンビルディング認証」” WEBマガジン「BUILT」(2017年)

ソフトバンク系の電力・エネルギーの専門メディア「スマートジャパン」による「BUILT」というWEBマガジンの連載です。LEED、WELLの概要および、評価クレジットの細かいところまでを、一から解説しており、好評を博しています。

第1回 LEED認証とは何か、  
取得のメリットと概要を知る  
今井康博 (GBJ理事/大林組)



第2回 WELL Building Standardとは？  
その価値、メリットとは？  
川島実 (GBJ運営委員/ヴォンエルフ)



第3回 LEED認証とWELL認証とのシナジー、両評価の  
重複評価項目に関する技術的考察  
永積(安原)紀子 (GBJ運営委員/ヴォンエルフ)



第4回 人と環境に優しい低VOC材、日本でLEED・  
WELLのクレジット取得率が低い理由  
牧田 碧夏 (GBJ運営委員/UL Japan)



### 「建築設備士」”建築物環境性能評価と 省エネルギー性能 特集” JABMEE機関誌 「建築設備士」(2015年5月号)



一般社団法人 建築設備技術者協会 (JABMEE) 発行の2015年5月号に  
「建築物環境性能評価と省エネルギー性能 特集」が掲載されました。  
LEEDの最新動向や認証取得建物の事例紹介記事があります。

#### 1. 建築環境評価システムおよび省エネルギー性能評価システムの最新動向

・LEEDの概要および最新動向について  
菅健太郎 (GBJ理事/Arup)



・エリア開発版LEED-NDと二子玉川東地区  
再開発における日本初適用について  
平松宏城 (GBJ共同代表理事/ヴォンエルフ)



#### 2. 認証取得・評価建物事例紹介

・日建設計東京ビル  
堀井めぐみ (GBJ運営委員/日建設計)



・清水建設本社ビル  
川島実 (GBJ運営委員/清水建設)



・大林組技術研究所 本館 テクノステーション  
石川英樹, 島岡宏秀, 小野島一, 伊藤剛  
(GBJ法人会員/大林組)



・大成建設技術センター ZEB実証棟  
熊谷智夫, 梶山隆史, 山口亮, 田中拓也, 吉田三香  
(GBJ法人会員/大成建設)



・イオンモール幕張新都心  
永森俊博, 柳内伸介, 山田安幸, 石川学  
(GBJ法人会員/大林組)



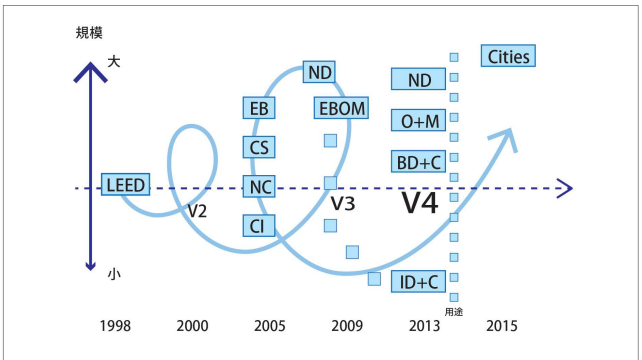
(所属等は掲載時)

### “ロングライフビルとLEED 2018” BELCA書籍「ビルと省エネルギー」 (2018年1月発行)



大村 紋子 (GBJ理事/レンドリース・ジャパン)

公益社団法人ロングライフビル推進協会 (BELCA) の機関誌「BELCA NEWS」に掲載された省エネ関連記事、ZEB 関連記事、環境性能評価関連記事などをまとめた書籍です。同名タイトルの2015年1月号掲載分を大幅に加筆して2018年版とし、ArcやLEEDの小規模の改訂 (V4.1) などの新しい動向を盛り込んで、サステナブルなBuilt Environmentの構築方法を考察しています。



### “都市計画とLEEDとの接点” 「都市計画家 Planners」 (2017春号) 冒頭インタビュー



平松 宏城 (GBJ共同代表理事/ヴォンエルフ)

都市の在り方についての幅広い社会課題を自立可能なビジネスの視点から捉え直す時、LEEDという性能評価が有効に機能する、そんな可能性を感じさせてくれるインタビュー記事です。



### WELL認証の概要・世界の潮流である 「人間フォーカス」の動向を知る (「月刊総務」2019年5月号)



「月刊総務」2019年5月号のWELL認証特集「社員のウェルビーイングを実現するこれからのワークプレイス」に、インタビュー記事 (WELL認証の概要・世界の潮流である「人間フォーカス」の動向を知る) が掲載されました。「WELL認証」の背景、概要や最新版の「v2パイロット」について紹介しています。

取材対応: 今井 康博 (GBJ理事/大林組)



### エコプロダクツ展2014 LEED/エコリーフセミナー

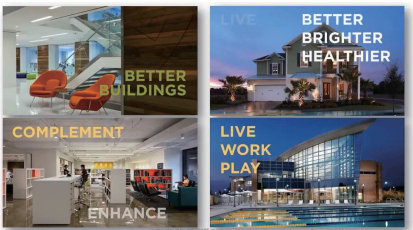


2014年12月12日 GBJと(一社)産業環境管理協会 (JEMAI) 共催セミナーの内容を掲載しています。

浦島 茂 (GBJ共同代表理事/インテル)  
LEEDの概要—グリーンビルディングジャパンのご紹介  
(1) LEEDとは (3) LEEDと環境ラベリング  
(2) LEEDの現状と将来 (4) GBJとはどういう組織か

永積(安原)紀子 (GBJ運営委員/ヴォンエルフ)  
事例紹介(ヴォンエルフの例)

日本国内のプロジェクトにおけるLEED認証の活用について紹介



\*QRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。

# Q&A

<https://www.gbj.or.jp/qanda/>

GBJへ寄せられたさまざまな質問のうち、多くの回答はGBJホームページにて一般向けに公開されていますので一部を紹介します。

## GBJについて

### Q1-1. GBJ が目指しているものは何ですか？

GBJは、世界標準の環境評価ツールの一つであるLEEDの普及を通じて、日本にグローバルなグリーンビルディングの取り組みを根付かせることを目的に設立されました。日本のみならず世界で環境への取り組みが転換点を迎えている今、私達一人ひとりが本当のサステナブルな社会環境を作り出すために出来ることは何か。GBJでの活動を通じて、会員の皆様と一緒に考えていきたいと思います。現在はLEEDだけでなく、WELL, SITES, GRESBなどGBCIの認証プログラムをすべて活動範囲としています。

### Q1-5. GBJ はどのように運営されますか？

GBJは、理事、委員会メンバー及び会員のボランティアとしての活動で支えられています。

## 入会・会員特典について

### Q2-5. GBJ 会員の役割と会員になるメリットは？

- ・GBJ の活動全般へ参加できます
- ・委員会のメンバーからの推薦を受けて委員会メンバーになることができます (委員会メンバーは、GBJ のためにボランティアで活動します)
- ・会員専用ページ上で会員同士で情報交換が出来ます
- ・会員専用ページから GBJ で用意した資料をダウンロードできます
- ・GBJ のセミナーやトレーニングを受ける際に割引があります
- ・GBJ の会員であることを名刺に表記できます

### Q2-13. イベントやセミナーを開催する際にGBJの会員にも案内を送付することは可能でしょうか。？

法人会員特典として、GBJのホームページイベントやセミナーの告知をすることができます。事前にGBJ理事の承認が必要となり、ニュース欄掲載が10ポイント、メールマガジン掲載が 1 回30ポイントとなっています。(トークンポイント 1 ポイント=1,000円相当です)

### Q2-28. WGや勉強会に参加するには費用が発生しますか？

GBJの会員の方には年会費を負担していただいておりますが、各WG・勉強会への参加に対しては一切の費用負担はございません。ボランティアでの協力をいただいているので、交通費などの自己負担は発生いたします。



### Q2-30. WELL WGに参加させていただけますか？

GBJの会員(法人会員,正会員,一般会員)であれば、WELL WGへの参加資格があります。WELL WGの活動は徐々に増えそうですが、現在は日本でのハードルを低くするための活動をしています。WELL要件と同等の日本基準を認めてもらうよう、働き掛けることが主となると思います。具体的には募集中です。

例:ADA同等、Blue angel同等など

## LEED資格・受験について

### Q3-3. どこで試験を受けることができますか？

下記ホームページから試験の申し込みができます。

<http://usgbc.org/credentials>

申し込みをする際にはUSGBC/GBCIへの会員登録が必要となるかもしれませんが、(これ自体は無料です)

試験は、プロメトリックという試験代行専門会社が行っており、会場が空いている時間帯であればいつでも受験可能です。会場は、最近試験を受けた方によると、以前は東京二箇所、大阪一箇所だったのが、現在は東京一箇所(お茶の水)、大阪一箇所になっていたとの情報がありますが、あくまでも灰間です。それ以外の試験会場があるかどうか、ご自身で上記URLにてチェックしていただくことを推奨いたします。

GBJホームページ(会員専用ページ)では、受験申込方法や勉強方法を具体的に紹介しています。

<https://www.gbj.or.jp/seminar20data/>

<https://www.gbj.or.jp/seminar31data/>

正会員またはWEB会員になっていただきますと、これらの資料にアクセス出来ます。



### Q3-5. 受験用に何を準備すれば良いですか？

LEEDグリーン・アソシエイト試験の準備に有用なLEEDコアコンセプトガイドの日本語版がリリースされました。(2016年2月)

<http://www.usgbc.org/resources/leed-core-concepts-guide-japanese>

LEEDグリーン・アソシエイトについては特に科目(専門)に分かれていませんので、まずは上記で学習を進められてはいかがでしょうか？またUSGBCだけでなくその他民間団体のWebinarなどもあります。

追記:LEED v4 Rating System (BD+C, ID+C, O+M)の日本語訳版がUSGBCのWEBサイトにて、無料公開されました。(2017年1月)



## LEED認証、USGBCについて

### Q4-12. 最新の世界各国でのLEEDの普及状況

<http://www.usgbc.org/advocacy/country-market-brief>

画面の説明文にある通りPDF形式でダウンロードすることもできます。最初の画面はUSの状況を紹介していますが、Countriesのプルダウンメニューで国名を選ぶと、各国の最新の情報が分かります。カーソルを表やグラフに合わせることで興味深いデータを見ることができます。



### Q4-15. 製品での認証は取得できますか？

USGBCでは製品単位で認証を与えることはしていません。USGBCの定めた規格にもとづいて取得されたもの(ここではSRI値)がある範囲に入っている場合、それを案件に使うと加点の可能性が出るということになります。また個別の製品に限らず、例えば既にある日本の基準をUSGBCに働きかけていくようなことを考えられている場合は、GBJに会員として参加いただくことも一つの方法です。ご確認ください。

### Q4-19. ビル入居者のメリットは？

省エネルギーや節水を達成することにより、テナント企業のイメージアップを図れるだけでなく、LEEDのIEQカテゴリーは室内環境の向上を目的としており、ビルのユーザーひとりひとりに直接働きかけるメリットがあります。具体的には、換気状況のモニタリングや厳密な喫煙室基準、オフィス内の眺望確保、有害化学物質不使用の内装材使用などがユーザーの健康を良好な状態 (well being) に保つことに寄与します。自己評価ではない100%第三者認証を通じて、エネルギーや節水性能の高さを国際的に認知されている定量的評価基準で示せます。日本でも、世界標準を目指すプロジェクトでの採用が増えてきています。

### Q4-40. LEEDの申請費用の概要を教えてください。

**掲載されているページを見つけられません**

英語ですが下記が該当ページのリンクとなります。

<http://www.usgbc.org/cert-guide/fees>



### Q4-44. V4 レファレンス 無料版があるということは、詳細は有料版として会員限定公開や書籍化を予定しているのでしょうか？

V4 レファレンス (LEED v4 Rating System) 無料版は、通常500ページほどのレファレンスガイドブック(有料、USGBC会員割引あり)の抜粋版です。無料版のダウンロードにより、LEEDの概要をほぼ把握することができます。一方、レファレンスガイドブックは具体的なプロジェクトにおける申請に関わる方向けの内容であり、これまでと同様に日本語訳版の 作成・販売予定はありません。

## LEEDクレジットについて

### Q5-1. プロジェクトのチェックリストとは

プロジェクトのチェックリストと呼ばれているものは、クレジット項目の名称と獲得可能ポイントの一覧表です。

LEEDのアプリケーションごとに獲得可能ポイントが違います。例えば新築でも用途によって8種類分かれています。

これらをまとめて、クレジット項目を和訳したものを会員用に用意しています。

### Q5-9. 建物でのエネルギー消費の「コスト換算」とは

**どのようなものでしょうか？**

「コスト換算」とは当該プロジェクトで使用する電力会社、ガス会社、燃料会社、地域熱供給会社などのエネルギー単価でコストに換算したものと言えます。LEEDとして固定的に定める単価や換算式のようなものではありません。

詳しくは、LEED reference guide やUSGBCのWEBサイトにある、各クレジットの内容が示されているLEED credit library にてEAカテゴリーのエネルギー使用関係のクレジット (Minimum energy performance 等)をご覧ください。

## WELLについて

### Q6-2. WELL認証の評価方法等が分かる資料はありますか？

WELL認証関連の評価方式などは以下のリンクより入手可能です。(無料)

<https://www.wellcertified.com/resources>

ここで「Japanese」を選択すると日本語化された資料がダウンロードできます。



### Q6-32. WELLの資格試験は、日本語版なら記述式回答でしょうか？

WELL APの受験形式ですが、PC画面に向かっての試験となります。英語が基本ですが、日本語併記です。100問選択式 2 時間で、終了後、すぐに点数が分かり、合否も分かります。なお、関連情報として、以下も参照ください。

<https://www.gbj.or.jp/well-ap-japanese20170901/>

[https://www.gbj.or.jp/well\\_japanese20170821/](https://www.gbj.or.jp/well_japanese20170821/)





# What's GBJ?

## GBJとは?



<https://www.gbj.or.jp/gbj-introduction/>

### 理事

共同代表  
平松 宏城  
ヴォンエルフ代表取締役, LEED Fellow,  
USGBC Faculty, LEED AP BD+C & ND,  
CASBEE不動産評価員



永積 紀子  
ヴォンエルフ  
LEED Fellow, LEED AP ND & BD+C



共同代表  
大村 紋子  
レンドリース・ジャパン  
LEED AP BD+C



牧田 碧夏  
UL Japan



今井 康博  
大林組 設計本部  
LEED AP BD+C, WELL AP,  
CASBEE建築評価員, CASBEE不動産評価員



小山 暢朗  
ヴォンエルフ  
LEED AP ID+C, WELL AP



棚田 英之  
LEED AP BD+C



浦島 茂  
インテル  
LEED Fellow, USGBC Faculty,  
LEED AP BD+C & O+M, WELL Faculty



齋藤 敦子  
コクヨ



葛岡 典雄  
技術士(衛生工学部門), 設備一級建築士,  
PE U.S.A.(California)



GBJは現在5つのワーキンググループ(WG)と1つの勉強会を通じて活動しています。活動の進捗は月1回の運営委員会で共有され、課題について協議します。運営委員会、WG、セミナーなどの会合は都区内の会員企業の会議室等にて随時開催していますが、遠隔地からもリモートで参加することができます。事務局の業務はすべてメール、ウェブサイトを通じて行っています。活動内容に関するお問い合わせもお待ちしております。

## 運営委員会 ワーキンググループ

### セミナーWG

GBJ会員および、メルマガ会員、学生を含め広く一般の方にもグリーンビルディングの基礎、概要、考え方を理解していただくため、種々のセミナーの企画検討、開催を中心に活動しています。

主査 歳弘 弘三  
グリーンコンサルティング サービス



### マテリアルWG

GBJホームページ内、マテリアルライブラリーの運営およびLEED・WELL等に貢献するマテリアルの紹介を行っています。

主査 林 昌明  
前田建設



### コンテンツWG

GBJの活動内容や最新のLEED, WELLおよびグリーンビディング関連の情報を広く多くの方に伝えるため、GBJウェブサイトのコンテンツ拡充、USGBC,IWBIからの最新情報に基づく情報の発信、展開等を行っています。

主査 宮本 順子  
レンドリース・ジャパン



### SDGs勉強会

GBJの進めるグリーンビルディングに関連するSDGsの基礎から、SDGsとグリーンビディングの今後の方向性を検討するための勉強会を行っています。

主査 歳弘 弘三  
グリーンコンサルティング サービス



### WELL WG

WELL日本語版作製の協力、日本版AAP (Alternative Adherence Path※P6参照) 実現に向けたIWBIとの協議等を行っています。

主査 川島 実  
ヴォンエルフ



### 事務局

棚田 英之  
金谷 淳平  
楠 春菜

### テクニカルWG

#### ACPチーム

LEED認証におけるACP (Alternative Compliance Path ※P6参照) のルート構築および提案を行っています。

主査 永積 紀子  
ヴォンエルフ



#### モデリングチーム

LEED認証のエネルギーモデリングや昼光モデリングなどの勉強会を行っています。

主査 柳瀬 真紀  
ウィリディスMEPエンジニアリング



### 関西支部

柳瀬 真紀  
ウィリディスMEPエンジニアリング



### 東海支部

岸本 知子  
竹中工務店



# 入会案内



https://www.gbj.or.jp/gbj-introduction/membership/

GBJはサステイナブルな社会づくりをめざす人々が連携する共用の場です。分野・専門を問わず、理事、運営委員、ワーキンググループメンバー一人ひとりのボランタリーな参画によって成り立っています。日本にグローバルなグリーンビルディングの取り組みをさらに発展させ、そして日本の技術や人材、取り組みがグローバルに認知され、国内外の隔てなく活躍できるような環境を整えたい、それが出発点でした。私たち一人ひとりが本当のサステイナブルな社会環境を作り出すためにできることは何か。活動を通じて会員のみなさんとGBJの組織そのもののあり方も一緒に考えていきたい。とくに将来を担う若手の方たちに所属会社の枠を超えてお集まりいただきたい。この思いは活動の範囲がLEEDだけでなくWELLやGRESBへと広がっても変わりません。みなさんご参加を心よりお待ちしております。

## 個人会員

| 個人会員                                 |                  |                |                |              |            |
|--------------------------------------|------------------|----------------|----------------|--------------|------------|
| 会費種別                                 | 正会員              | 一般会員           | 学生会員           | WEB会員        | メルマガ会員     |
| 入会金                                  | なし/ No entry fee |                |                |              |            |
| 年会費*                                 | 20,000円<br>※1    | 10,000円<br>※1  | 3,000円<br>※2   | 3,000円<br>※2 | 無料         |
| セミナー等への参加                            | ○<br>無料/会員割引料金   | ○<br>無料/会員割引料金 | ○<br>無料/会員割引料金 | ×<br>すべて有料   | ×<br>すべて有料 |
| GBJホームページ会員専用ページの閲覧<br>(ビデオライブラリーなど) | ○                | ○              | ○              | ○            | ×          |
| メルマガの配信<br>(ホームページ更新速報、セミナー案内など)     | ○                | ○              | ○              | ○            | ○          |
| 会員総会への参加                             | ○                | 参加可/議決権無       | 参加可/議決権無       | ×            | ×          |
| 運営委員会への参加                            | ○要推薦<br>会費免除規定あり | △<br>※3        | ○(オブザーバー)      | ×            | ×          |
| WGへの参加                               | ○                | ○              | ×              | ×            | ×          |

※1 入会年の年会費は、1～3月入会:年会費と同額、4～6月入会:年会費の3/4、7～9月入会:年会費の1/2、10～12月入会:年会費の1/4 となります。

※2 入会年の年会費は、1～6月入会:年会費と同額、7～12月入会:年会費の1/2 となります。

※3 新規にGBJ運営委員会メンバーになりたい方は、事務局もしくは運営委員に連絡ください。

- 入会年の会費は入会時期による割引があります。
- 正会員・一般会員・学生会員・WEB会員は自動継続ではありません。

# メールマガジン

https://www.gbj.or.jp/contactus/mailmagazine/



ホームページ更新情報、セミナーのご案内、LEED や WELL に関するニュースなどをメール配信します。

配信頻度：月 2 ～ 3 回程度

購読料金（年会費）：無料

お問合せ：gbj-adminioffice@gbj.or.jp



## 法人会員

| 法人会員の年会費および特典一覧表<br>Annual Fee for Corporate Membership |                                      |                                                                                   |                           |                               |
|---------------------------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-------------------------------|
| 会費種別<br>Membership Levels                               | グリーン会員<br>Green Membership           | シルバー会員<br>Silver Membership                                                       | ゴールド会員<br>Gold Membership | プラチナ会員<br>Platinum Membership |
| 年会費*<br>Annual Membership Fee                           | 100,000円                             | 250,000円                                                                          | 500,000円                  | 1,000,000円                    |
| GBJホームトップページに<br>法人会員のロゴ表示                              | レイアウト・サイズについてはGBJが会員種別毎の会員数に基づき決定    |                                                                                   |                           |                               |
| 付与されるトークンポイント(買増し可)**                                   | 100                                  | 250                                                                               | 500                       | 1,000                         |
| 特<br>典                                                  | 会員専用コンテンツへのアクセス権に<br>必要なトークンポイント（必須） | 法人企業内無制限利用料として50points（必須）                                                        |                           |                               |
|                                                         | セミナー、イベントへの参加などの<br>特典に使えるトークンポイント   | 50                                                                                | 200                       | 450                           |
|                                                         | イベントの告知や求人<br>をGBJホームページやメルマガに掲載     | ニュース欄掲載が10ポイント                                                                    |                           |                               |
|                                                         | GBJ法人会員紹介ページからリンクする                  | メルマガジン掲載が1回30ポイント                                                                 |                           |                               |
|                                                         | 法人企業の情報発信ページの提供                      | 法人会員企業であればフリーポイントで掲載可能                                                            |                           |                               |
|                                                         | マテリアルライブラリー掲載                        | 但し、フォーマットのカスタマイズ等希望の場合相談による                                                       |                           |                               |
|                                                         | セミナー、イベントへの参加                        | 掲載可能                                                                              |                           |                               |
|                                                         | 出張セミナー・講演・<br>パネルディスカッション            | 出張セミナー：内容・時間によりポイント利用にて可能。要相談。<br>講演・パネルディスカッション：シルバー会員以上は1時間以内<br>50ポイントでトークン利用可 |                           |                               |
|                                                         | イベント・セミナーへの協賛                        | 法人会員企業がLEED製品展示会・セミナーイベント等を開催する場合に、<br>当該製品やセミナーの主旨に対しGBJが協賛する。                   |                           |                               |
|                                                         | 法人会員代表者を正会員と同じ立場で<br>会員総会や委員会、WGへ参加  | 法人会員が1名を選出して参加可能（トークンポイントの追加負担なし）                                                 |                           |                               |

\*入会年の年会費は、1～3月入会:年会費と同額、4～6月入会:年会費の3/4、7～9月入会:年会費の1/2、10～12月入会:年会費の1/4 となります。

\*\*事業年度内に使い切らなかったトークンポイントは、同会員種別にて継続の場合のみ次年度に繰り越すことが出来ます。

GBJでは個人と法人のメンバーを随時募集しています。

個人会員のお申込はホームページ(上記QRコード/URL)から、法人会員のお申込は事務局へご連絡ください。

事務局：gbj-adminioffice@gbj.or.jp

\*QRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。

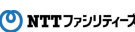
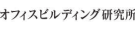


Corporate members

Silver



Green



用語解説

|       |                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| GBJ   | Green Building Japan<br>一般社団法人 グリーンビルディングジャパン                                                                 |
| LEED  | Leadership in Energy & Environmental Design<br>最高クラスのビルト・エンバイロメントを作るための戦略やそれらをどう実現させるかを評価するグリーンビルディングの認証プログラム |
| WELL  | WELL Building Standard<br>空間のデザイン・構築・運用に「人間の健康」という視点を加え、より良い住環境の創造を目指した評価システム                                 |
| Arc   | Arc Skoru Inc.<br>GBCIの傘下に設立された、建物・地域などのパフォーマンスを測るためのプラットフォーム。運用性能の改善を図り、ベンチマークとの比較評価を可能とする。                  |
| SITES | Sustainable SITES Initiative<br>USGBCが制度設計をし、GBCIが審査をするランドスケープに特化した評価認証プログラム                                  |
| GRESB | グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク                                                                                       |
| USGBC | U.S. Green Building Council<br>LEEDの開発を行う非営利団体(NPO):米国グリーンビルディング協会                                            |
| IWBI  | International WELL Building Institute<br>WELL Building Standard の開発、運営を行う公益企業(PBC): 国際ウェルビルディング協会             |
| GBCI  | Green Business Certification Inc.<br>LEED、WELL Building Standard、GRESBなどの認証、専門資格者の管理を行う第三者機関                  |